

映画の新着情報

『バルーン 奇蹟の脱出飛行』

物語の舞台は1979年の東西冷戦下の旧東ドイツ。秘密警察(シュタージ)が国民の日常生活に厳しい監視の目を光らせていたこの国では、大勢の市民が西側への逃亡を試みるが、それを遂行することは容易でなく、ベルリンの壁を越えようとした多くの人が国境警備隊に射殺された。それでも自由を追い求める市民は絶えることなく、ある者は川を泳いで渡り、ある者は地下にトンネルを掘って国境を突破しようとした。本作は、そんな時代において、ある平凡な家族が自家製の熱気球に乗って空を飛び、西ドイツを目指すという実話に基づいた驚きの物語。映画のポスターでは、夜空に浮かぶ熱気球の写真に、「空に壁はつけれない」という言葉が添えられており、家族の思いが伝わってくる。

●『バルーン 奇蹟の脱出飛行』
2018年/ドイツ/125分/
監督:ミハエル・ブリー・ヘルビヒ
配給:キノフィルムズ/木下グループ
7月10日からTOHOシネマズ
シヤンテほか全国で公開。

公式サイトは
こちらから



©2018 HERBX FILM GMBH, STUDIOCANAL FILM GMBH AND SEVENPICTURES FILM GMBH



*新型コロナウイルスの影響により、映画の公開延期等の可能性があります。事前に公式サイトなどでご確認ください。

SPECIAL NEWS

一日も早い終息を目指し、
これからも精力的に活動します。



上: 飛沫防御シールドを病院へ届ける同工科院の関係者たち。

新型コロナウイルスに立ち向かう! マレーシア日本国際工科院の挑戦

各国が新型コロナウイルスのパンデミック(感染症の世界的な流行)に対処するなか、JICAが連携した企業や大学が力を発揮し、さまざまな取り組みを行っています。今回は、マレーシア日本国際工科院の医療支援ツールの開発・生産について紹介します。



左: レーザー切断機で製作した飛沫防御シールド。
右: 開発されたシールド装置。

JICAは2011年よりマレーシア日本国際工科院の研究能力の向上などに協力(2023年まで継続予定)。修了生や在校生たちはそこで学んだ知識を生かし、感染者対応の最前線で奮闘している。まず医療従事者への飛沫感染を防ぎながら呼吸器の挿管などの対処ができるシールド装置を開発。病院での実証実験も行われ、病院関係者によってその効果が確認されて、すでに12台を病院に寄贈。今後も病院からのリクエストに応じて増産していくという。またレーザー切断機を活用して製作した飛沫防御シールドの生産も始まっている。このシールドも感染患

者を受け入れる市内の病院に寄贈、市民に向けての販売も検討されている。

医療支援ツール開発と生産以外にも、まだ不明点の多い新型コロナウイルスの拡散のメカニズムの研究や、感染者の確認数に基づき、危険度を色分けした地図の公開、また、防災リスク管理と市民の安全の向上に努めるなど多方面で貢献している。

詳しくは
こちらから



市民防護局の職員と一緒に、同工科院の修了生と在校生が現場で活躍している。

本の新着情報

『図解でわかる 14歳からの水と環境問題』



読者
プレゼント
詳細は
p.38へ

今号の特集テーマでもある水は、私たちの生活になくてはならないもの。本書は、水とそれに関わる環境問題について最新の研究結果をまとめている。人と水との関わりや歴史や、世界中で起こっている地球温暖化の影響、私たちにすぐに取り組めるような環境対策におけるアイデアや改善方法なども紹介。カラーの写真やイラストも多く使用されており、本文中の漢字にはふりがなが付き、読みやすいように工夫されている。学生の自由研究や、SDGsをより深く学びたい人にも最適の一冊。

●『図解でわかる
14歳からの水と環境問題』
インフォビジュアル研究所 著/太田出版
1,500円(税別)

『ごみを宝に—カトマンズ クリーンアップ奮闘記』

著者の東風平(こちひら)さんは宣教師としてネパールに派遣されたのをきっかけに、NPOを立ち上げ、首都カトマンズで環境問題に取り組んでいる。本書はNPOの立ち上げ初期に、カトマンズでスラムの人たちと行ったごみ処理問題への取り組みをつづったもの。4年の歳月をかけ、悪戦苦闘しながら取り組んだプロジェクトからは、うまくいくことばかりではない国際協力の現場や、ネパールにおけるごみ

管理の現状や課題を知ることができる。当時筆者がブログにつづったものを加筆修正したもので、軽妙なタッチが読みやすい。著者は元青年海外協力隊員でもあり、国際協力に興味のある人にお勧めの一冊。

●『ごみを宝に—カトマンズ クリーンアップ奮闘記』
東風平 巖 著/NPO法人エデンプロジェクト
1,500円(税別)



読者
プレゼント
詳細は
p.38へ



読者
プレゼント
詳細は
p.38へ

『世界がぐっと近くなる SDGsとボくらをつなぐ本』

SDGs(持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで採択された17のゴール(目標)と169のターゲット(ゴールに関連する具体的な目標)で構成される世界全体の目標。国連が世界に呼びかけたことで、日本を含む多くの国や企業、個人がこのSDGs達成に向けて動き出している。本書は、ジャーナリストである池上彰さんの監修のもと、誰でも理解で

きるように、17のゴール一つ一つをわかりやすく噛み砕いて紹介している。SDGsがきっかけで他人事ではなく「私(たち)の問題」であると感じられ、楽しく読み進めることができる。

●『世界がぐっと近くなる SDGsとボくらをつなぐ本』
池上彰 監修/学研プラス
4,800円(税別)

JICA 地球ひろばで行われた講義も収録!

本書の巻頭には、「池上彰SDGs特別講義」の様子が掲載されている。この講義は、市ヶ谷(東京都新宿区)にあるJICA地球ひろばで行われたもので、5人の子どもたちが参加した。展示物を使い、子どもたちの疑問や意見を交えながら、池上さんが子どもたちの目線でSDGsについて解説している。



国名を選択すると、各国のSDGs達成度がパネル表示される展示で、日本の達成状況を学ぶ子どもたち。



展示物を使い、各国が出している1週間分のごみの量を比較した。